

イノベーション促進のための知識プラットフォームの重要性

イノベーションのスパイラル構造（3つのタイプのイノベーション）

第1のイノベーション



第2のイノベーション



第3のイノベーション



- 異分野の科学技術を組み合わせ、システムとして統合し、新しい展開をはかる。

- 科学技術だけでなく、学術全般、特に人文社会科学的視点が必要
- システム的視点に立ち、多様な環境を考えたグローバルな立場からの研究開発が大切
- 科学技術を芸術創造にまで結びつけてきた我が国の優位性を活かすことが重要
- 課題解決型の研究が大切であり、社会の人たちの参加が必要
- ルール（標準化）を制することが重要

知識と拡大再生産のために、**知識の創造と集積・流通・活用のサイクル**の構築が必要

課題解決型の研究に、様々な学問分野がかかわる**システム的アプローチ**が必要

知識プラットフォームの構築が必要

科学技術情報の電子化率（2008年）

欧米 90%以上
日本 40%台

これでは勝負にならない！

第3のイノベーションを実現する知識プラットフォーム



知識プラットフォームの要件

- 最先端の通信ネットワークを中心とし、組織的に整備された学術情報コンテンツ、知識コンテンツを有する。
- 分野を超えた知識の関連付けが行われている。
- 日本中に散在するコンテンツの所在を集中管理し、そこに検索をかけば関連する全ての必要なコンテンツが得られるようにする。

↑

知識プラットフォーム構築のために最先端の情報通信技術の研究開発が重要

[注] 長尾 真 氏(国立国会図書館長)の総合科学技術会議基本政策専門調査会ヒアリング資料(2010年2月23日)を参考にした。そのなかの「知識インフラ」を、ここでは「知識プラットフォーム」と記している。